

2020 年度後期 授業改善アンケート集計結果に対する意見
データサイエンス教育研究センター

データサイエンス教育研究センター長 小宮路 雅博

2020 年度後期の「授業改善アンケート」は、前期に引き続き、Web 上での実施となっている。個々の質問項目(質問票上は Q6 ~Q18、集計結果では設問 1~13)の殆どは遠隔授業に合わせて変更されているので、昨年との単純比較は困難である。

今回、データサイエンス教育研究センター所管科目について、実施必須科目は 7 科目であり、100%の実施率となっている。教室でのアンケートとは異なり、Web アンケートの回答率は低くなるのは容易に予想されるが、このアンケートでも「延べ回答者数/延べ履修者数=回答率」は 23.9%で凡そ 2 割強の回答率となっている。この回答率は前期(22.5%)と殆ど変化はない。これは、①前期に引き続き、ほぼ同じ学生達が履修しているので、Web アンケートに回答する学生は回答し、回答しない学生は回答しないので、回答率も変化がない、②このことからすれば、いつも回答してくれる学生達のいつもの回答である、ということかもしれない。

結果全体を通してみると、回答対象となっている設問項目(設問 1~12)において 5 点尺度で平均値 4.0 以上、多くの項目で 4 ポイント台中位近辺となっており、前期と同様に全て高い評価を得ている。データサイエンス科目群は必修科目ではなく、学生が自分の判断で積極的に言わば「好んで」履修しているので、学部科目でのそれと比して評価が高くなるのは、(履修行動の不協和解消の点でも)当然とも言えるだろうが、それでも全般的な高評価はデータサイエンス科目群が学生達の期待に良く応えていると解釈することができよう。もちろん、(おそらく、いつも)回答していない 8 割近くがどのように考え、評価をしているかについては意識する必要がある。

個々の質問項目について若干のコメントをすると以下のようなになる。

「設問 1:円滑な受講」については、回答学生のほぼ全員(98.4%)が「とてもそう思う」「そう思う」と回答し、トータルで 4.63 ポイントとなっている。この数値の高さは前期も同様であったので、全面遠隔授業の中で回答学生達が、円滑に受講できていたことが伺える。これは教員の授業提供が問題なく機能したものと考えられるが、受講側の事情としては、データサイエンスに興味を持っている学生達が履修しているので、彼らの PC スキルや Web 遠隔授業への順応力が元々高かったとも解することができる。

「設問 2:受講生の努力」については、トータルで 4.42 ポイントとなっている。遠隔授業においては、学生の自発的・積極的な取り組みが求められるので、この高いポイントは巷間、言われていることと合致しているが、学生が積極的に履修する自由選択科目である点は考慮されるべきであろう。

4.5 以上と評価が高かった項目としては、「設問 3:教員の十分な指示(4.53)」「設問 4:教員指示の分かりやすさ(4.53)」「設問 7:遠隔ツールの適切使用(4.63)」「設問 12:授業資料の見やすさ(4.53)」が挙げられる。これらは、教員側の遠隔授業への適応度やスキル・習熟を示す項

目であり、ここからも良好に遠隔授業が行われていたことが伺える。

また、「設問 13:1 週間当たりの当該科目の勉強時間(2.44)」は、前期の同数値は 2.05 であったので、後期は少し多くなったことが示される。これは、①教員側の遠隔授業への慣れにより、学習を促すようなより多く課題が課されたり、指導が行われた、②学生側の遠隔授業への慣れにより、より自発的な学習が促された、③或いは、単に後期開講科目の方が応用的内容であるので、その分、より多く学習する必要があった、といった要因が考えられる。

「設問 11:総合評価」は、授業への全般的評価を示すものとして設定されており、4.56 の数値は前期とあまり変わらない。昨年度も同じ設問があり、4.38 であったので、全面遠隔授業への移行後の方が評価が(若干ではあるが)上がるというのは興味深い点である。設問 11 との相関係数の観点では、学生自身の成果実感項目「設問 10:この分野への興味・関心」が 0.81 と最も高く、次いで授業レベル(設問 6)、学生自身の努力評価項目(設問 2)の相関係数が比較的高くなっている。

授業手法(Ⅲ)については、選択肢ア～サのうち、アの「課題(レポート等)」のみが回答率 84.1%と突出して高くなっている。この回答率は、昨年度の調査では 27.0%であったので、この点では、「遠隔授業では課題が多くなる」との良く語られる主張を裏付けているものと思われる。オのコメントペーパーも 50.8%であり、こちらも昨年度の 29.4%より大きく増えている。尤も、アやオは、受講学生全員からフィードバックを得る手段であるので、遠隔授業において教員が一方通行にならないように双方向性を確保しようとするれば、これらの数値が上昇するのは当たり前ではあるだろう。

身についた資質・能力(Ⅳ)については、「ア:この分野の知識、学力」が突出しており、これについては例年通りである。「ウ:数理的な能力」が高いのも、この科目群の性質を表している。他の資質・能力については、大学全体また各学部においては低位に留まる傾向があるが、データサイエンス科目群においては数値の殆どが高くなっている点が特徴である。データサイエンス科目群はより実践的な内容であるので、受講学生達はこれらの資質・能力の差分をより実感できるのかもしれない。

以上